

重油等オイルの海岸漂着状況と生態系への影響調査活動

報告書

2018 年 9 月

NPO 法人徳之島虹の会

(WWF 緊急支援活動)

【調査概要】

2018年1月6日に長江河口沖合い300kmで、イランの海運会社の所有タンカー「SANCHI」（8万5000トン）が、中国の貨物船と衝突。同月14日に、奄美大島の西300km沖合いで沈没し、積荷の大量の軽質原油コンデンセートが流出した。また船舶の燃料と考えられる油類の流出も確認された。

NPO法人徳之島虹の会ではWWFジャパンの緊急支援を受け、4月から6月までの3ヶ月間、オイルボールなど油分の漂着状況について調査を行った。

調査方法は、国立公園区域を中心に徳之島の周辺海岸6地点（阿権浜、犬之門蓋海岸、与名間ビーチ、金見北部海岸、畔プリンスビーチ、喜念浜）を対象に実施。一か月あたり3回、2名が実際に現場を徒歩で歩き目視確認。確認した油類や付着ゴミのほか、生き物の遺骸等を、GPSのロケーション情報と共に記録する方法で行われた。

調査から、漂着した油類は、事故当時から5月ごろまでの間に、この周辺での漂流が収束した可能性が高いと推測できた。また野生生物への影響では、直接的死亡原因になった固体は見つからず、大規模な影響はなかったことがうかがえ、当初心配されたウミガメの上陸・産卵も、調査終盤には回復していることが確認された。

一方で、サンゴ礁のリーフや沿岸の海底に沈降していると考えられる油塊や目視確認が難しい微小なオイル成分などの、沿岸生態系への影響については引き続きモニタリングや対策を備えていく必要があると考えられる。

NPO法人徳之島虹の会では、継続的に行っているウミガメの上陸状況に関する調査とともに、海岸の観察を続けていく予定。またWWFでも、今後このような事故が発生した場合の国や関係諸機関による自治体や住民への迅速かつ正確な情報の共有体制を整備し、相互に連携して対策を行う体制と、長期的な環境モニタリング事業の制度などし、現状のしくみの見直しを求めている。

調査に関する問い合わせ先

NPO法人徳之島虹の会：

大島郡伊仙町大字伊仙 2324 番地 1 NPO 法人 徳之島虹の会（電話 0997-86-3575）

WWF ジャパン：

東京都港区三田 1-4-28 三田国際ビル 3 階 WWF ジャパン南西諸島プロジェクト
（電話 03-3769-1713）

徳之島沿岸 重油等オイル漂着状況 実地踏査調査記録

調 査 日：平成30年4月～6月 各月3回

調 査 員：NPO法人徳之島虹の会

調査場所：徳之島における奄美群島国立公園内の海岸6ヶ所

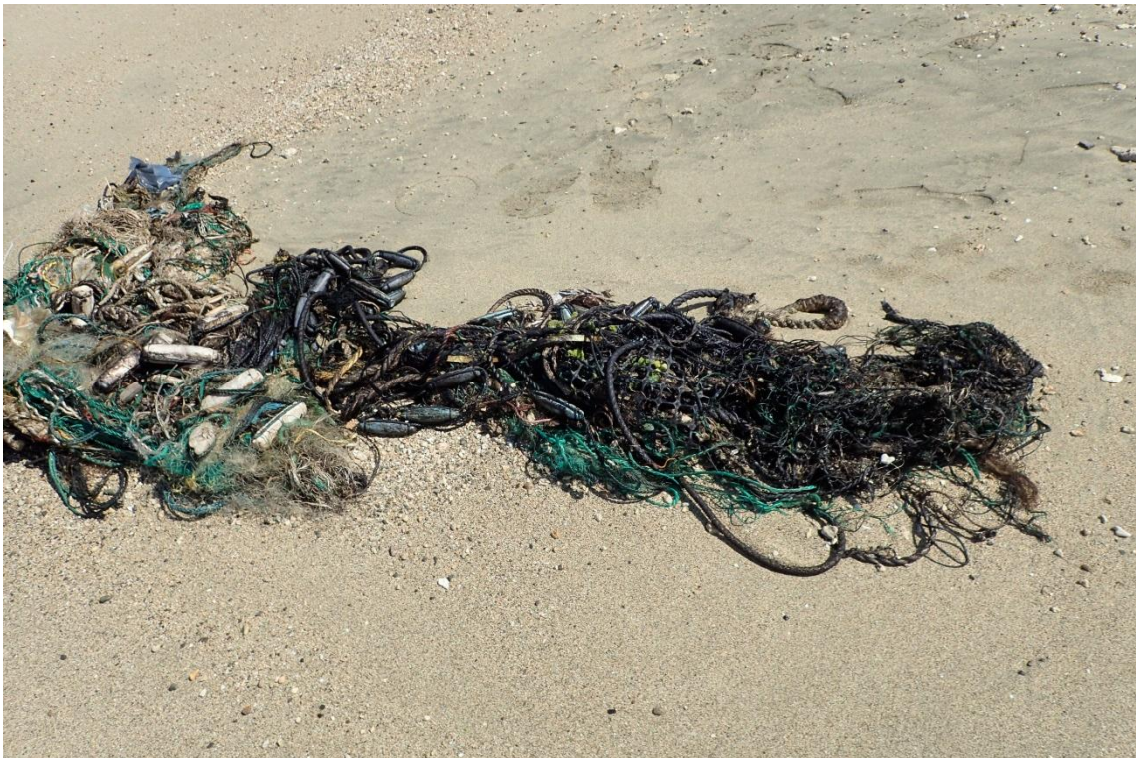
調査方法：徒歩による目視調査、及びGPSポイントの測定と写真撮影による

場 所	阿権浜	犬之門蓋海岸	与名間ビーチ	金見北部海岸	畦プリンスビーチ	喜念浜
スタート	27.69914/128.91351	27.80151/128.88965	27.86927/128.88892	27.89033/128.96072	27.84793/128.97084	27.68387/128.99673
ゴール	27.70102/128.81083	27.79686/128.89046	27.86376/128.89014	27.88953/128.95624	27.85140/128.97206	27.69037/128.99976
4/9(月)	全体漂着ゴミのみ	27.79792/128.89061 (オイルボール)	27.86561/128.88876 (オイルボール)	27.89082/128.96152 (オイルボール)	27.84847/128.97095 (オイルボール)	27.68384/128.99689 (ネズミフグ遺骸)
		27.79809/128.89064 (オイルボール)	27.86435/128.88962 (オイルボール)	27.89077/128.96098 (オイルボール)	27.84985/128.97154 (オイルボール)	27.68460/128.99753 (カワハギ遺骸)
		27.79809/128.89064 (伊勢海老遺骸)	27.86862/128.88872 (ハコフグ遺骸)	27.79809/128.89064 (サシバ遺骸)	27.84948/128.97134 (オイルボール)	
					27.84948/128.97134 (海鵜遺骸)	
					27.84971/128.97142 (フグ遺骸)	
4/18(水)	27.69994/128.91206 (オイル付漂着ゴミ)	27.79890/128.89027 (オイルボール)	27.86552/128.88878 (オイルボール)	27.89084/128.96152 (オイル付漂着ゴミ)	一部漂着ゴミのみ	27.68501/128.99779 (イソヒヨドリ遺骸)
		27.79784/128.88992 (オイルボール)				27.68912/128.99901 (フグ遺骸)
		27.79682/128.89000 (オイルボール)				27.69065/128.99973 (海鵜遺骸)
4/26(木)	調査済み漂着ゴミ	27.80036/128.89046 (漂着ゴミ)	調査済み漂着ゴミ	27.88973/128.95294 (海鵜遺骸)	27.84892/128.97125 (オイル付漂着ゴミ)	調査済み漂着ゴミ
5/2(水)	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	27.86765/128.88846 (オイルボール)	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ
			27.86680/128.88870 (オイルボール)			
			27.86562/128.88876 (オイルボール)			
5/17(木)	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ
5/24(木)	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ
6/5(火)	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	27.68425/128.99739 (ハリセンボン遺骸)
						27.68602/128.99757 (海亀産卵跡)
6/12(火)	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	27.86496/128.88913 (赤海亀上陸跡)	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ
6/28(木)	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	調査済み漂着ゴミ	27.68648/128.99797 (海亀上陸産卵跡)

【関連資料】 調査時の撮影記録



海岸で確認されたシロチドリには目立ったオイル付着はなし



部分的にオイルが黒く付着した漂着ゴミ

磯場で確認された漂着油







確認された砂浜部分の油の漂着（与名間ビーチ）回収済



【関連資料】 本件に関する WWF の要望書

2018 年 4 月 3 日

要望書

内閣官房総合海洋政策本部
本部長 安倍 晋三 殿

公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン(WWF ジャパン)
会 長 徳 川 恒 孝

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃より、自然環境の保全にご尽力を賜り誠にありがとうございます。

さて、今年 1 月イランのタンカー-SANCHI 号が、香港籍の貨物船と衝突、沈没した事故で流出した油等は、奄美大島から西方約 315km 沖の日本の排他的経済水域まで漂着が確認されました。さらに 3 月 17 日には和歌山県沖にてパラオ船籍の貨物船 DONGKUN7 の事故が発生しております。SANCHI 号の事故については、漂着場所や時期、規模などの予測が困難な状況の中で、関係省庁と連携しつつ漂着したエリアの生態系調査などを実施し、それらの結果を公開されていることと存じます。

SANCHI 号の流出油等は、衝突が日本の排他的経済水域外で起こったこともあり、事故発生当初から日本への漂着の可能性が指摘されていたにもかかわらず、予防原則が機能しないままタンカーの破損が原因と考えられるオイル成分の国内への漂着が確認されました。WWF ジャパンは、本件の衝突事故発生後の日本政府の初動が、現地における希少な動植物の生息地や個体への影響に対する対応が遅れた原因の一つと認識しております。日本政府は、過去に油汚染事件の発生に備えた近隣諸国等との合同訓練、実務者会合を実施・開催し、また国内において首相官邸の危機管理センターに情報連絡室を置いて情報を収集してきました。しかし SANCHI 号の事故の現地やメディア等の状況では、漂着範囲や時期、規模、被害などについて様々な情報が交錯しており、必ずしも適切なタイミングで適切な情報が国民に発信されていたとは言えません。頻発するタンカー衝突事故を懸念し、WWF ジャパンは、以下の要望を致します。

1. 流出油等の生態系及び野生生物を含む被害について、OPRC 条約にもとづき、自国の排他的経済水域の事故に限定することなく日本に影響が出る可能性のあるエリアでの事故の情報を隣国や関係諸国と発生当初から情報共有し、その情報を国内の関係省庁等と連絡・調整を円滑に進めることが出来るよう「油汚染事件への準備及び対応のための国家的な緊急時計画」(以下、緊急時計画)の見直しすること。
2. 緊急時計画は、見直しなどの主体が記載されていないため、明確にすること。
3. 緊急時計画の見直しは、過去や海外の類似事例関係者からの知見と経験に基づき、生態系回復のためのプログラム、予防原則の考え方と方策、事故発生時の体制、事故による影響や予測に関する情報の迅速な開示体制、長期的なモニタリングの実施、国際油濁防止請求などに関する内容を盛り込むこと。

なお WWF ジャパンは、本要望書を提出するだけでなく、地元団体が行っている対策活動への緊急支援を通して、本件に起因する生物多様性保全上の問題解決に取り組んでゆきます。宜しくご検討のほどをお願い申し上げます。

報告書『重油等オイルの海岸漂着状況と生態系への影響調査活動』

調査実施：NPO 法人徳之島虹の会

発表：2018 年 9 月

制作：WWF ジャパン（公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン）

東京都港区三田 1-4-28 三田国際ビル 3 階

<http://www.wwf.or.jp/>

